

SDG s に向けた有機・バイオ関連材料の機能制御と評価に関する調査専門委員会
設置趣意書

電子材料技術委員会

1. 目的

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals; SDGs)は天然資源の有限性を意識して2015年に国連が加盟国・地域の賛同を得て定めた概念であり、わが国もその実現に向けた活動を行うことが求められる。そのためのアプローチは様々なものが考えられるが、有機材料およびバイオ関連技術は、炭素資源の有効利用の点からもSDGsに親和性が高い。本委員会では、有機・バイオ関連材料・デバイスをSDGsのために活用するにあたって解決すべき固有の課題と問題点を明らかにするとともに、そのような材料・デバイスを実現するにあたって今後必要と考えられる新規プロセス及び評価技術について産官学の連携の下で検討を進める。

2. 背景および内外機関における調査活動

本委員会は2018年から2020年にかけて活動した「IoTと持続可能社会に向けた有機・バイオデバイス関連技術に関する調査専門委員会」の後継と位置付けられる。国内外の大学等の各機関や学会においてもSDGsを意識した活動が活発化しているが、対象が広範囲にわたるため焦点が絞り切れていないきらいがある。本委員会では、有機・バイオ技術に特化して調査活動を行う。

3. 調査検討事項

- ・有機トランジスタ、有機ELなど応用電子工学の分野の新技术
- ・各種化学センサー、生体分析化学など化学・バイオ分野に関連する技術
- ・アクチュエータ、ハプティクス、ロボティクスなど機械工学に関連する技術
- ・有機薄膜太陽電池、有機・無機ハイブリッド太陽電池、二次電池等のエネルギー関連技術
- ・関連する新規評価技術

4. 予想される効果

産学官からなる構成メンバーによる専門的な活動により、最新の情報を集積することができる。また、産学官の共同研究や、研究会・講習会や電気学会全国大会および部門大会でのシンポジウム等を通して、SDGsにおける有機/バイオ関連材料技術の社会実装例や発展に向けた指針を示すことをめざす。

5. 調査期間

令和3年(2021年)4月～令和5年(2023年)3月

6. 委員会の構成(職名別の五十音順に配列)

| 職名 | 氏名 | (所属) | 会員・非会員区分 |
|-----|-------|----------|----------|
| 委員長 | 島田 敏宏 | (北海道大学) | 会員 |
| 委員 | 岩田 展幸 | (日本大学) | 会員 |
| 同 | 臼井 博明 | (東京農工大学) | 会員 |
| 同 | 遠藤 浩幸 | (NEC) | 会員 |

| | | | |
|-----|--------|--------------|----|
| 同 | 大谷 幸利 | (宇都宮大学) | 会員 |
| 委 員 | 加藤 景三 | (新潟大学) | 会員 |
| 同 | 管野 敏之 | (TECPAR) | 会員 |
| 同 | 吉良 敦史 | (日本航空電子工業) | 会員 |
| 同 | 工藤 一浩 | (千葉大学名誉教授) | 会員 |
| 同 | 久保野 敦史 | (静岡大学) | 会員 |
| 同 | 泉田 和夫 | (藤倉コンポジット) | 会員 |
| 同 | 福田 武司 | (積水化学) | 会員 |
| 同 | 柳町 元成 | (尾池工業) | 会員 |
| 同 | 渡邊 康之 | (公立諏訪東京理科大学) | 会員 |
| 同 | 吉田 郵司 | (産業技術総合研究所) | 会員 |
| 幹 事 | 嘉治 寿彦 | (東京農工大学) | 会員 |

7. 活動予定

| | | | |
|-----|------|-----|------|
| 委員会 | 4回/年 | 幹事会 | 4回/年 |
| 見学会 | 1回/年 | | |

8. 報告形態

電気学会またはC部門大会でのシンポジウム開催をもって成果報告とする。